

ソバ(蕎麦)



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法	
土作り	なるべく早く (播種20日前迄に)	[例A] 痩せた土での土作り	[例B] 肥沃な地力作り
		<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g ●米ヌカ90kg ●硫安10kg ●硫酸カリ10kg 	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g ●堆厩肥500kg前後 ●硫安10~20kg (厩肥が少なければ硫酸カリ10kg) ※上記の3倍量投入の例あり。
※ソバはごく早期(第1本葉の展開時)から花芽を分化、花を着けて、生殖生長をする。また過繁茂・倒伏の危険もあるので、無機チッソを過剰にしないよう注意。しかし安定・多収にはしっかりした地力が必要。 ※播種時以降、栽培中には必ず土壤ECを0.2以下にする。通常の施肥では困難だが、ラクト・バチルスが働いている土壤は必ずそうなる。			
整地時	整地時に全面散布 (または土作り時に)	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 30~40kg ※土壤pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 水田転換地では、土壤が酸性の例が多いので畑の大将<青>を。 →カルシウムを効かせて蕾・花を確実に強く付ける。	
播種後	播種後の灌水時、 ないし出芽期	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液を灌水、 または10アール1~2ℓを倍率適宜で灌水 →発根と初期生長を旺盛にする。(チッソ過多・徒長ではない) ※根の強い体質を作り、以後状態によって7~15日ごとで繰返す。	
初期	本葉の展開(緑色化) の2~3日後、ないし第 1花の着蕾期	<ul style="list-style-type: none"> ●花咲くCa液500倍を葉面散布(土まで染込むようにタツプリと) →葉に厚みをつけ生育を充実させ、花芽分化・着蕾・開花を促進する。 ※カルシウム豊富な体質を作り、以後状態を見て7~15日ごとで繰返す。	
カルシウムの 追肥	[播種後1ヶ月頃] 開花始めから 5日後頃	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 20kg ※土壤pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 →約10日後の開花最盛期に花を揃って強くし、受精・結実を促し、 果実を揃って成熟させ、脱粒を防ぎ、ソバ粉の品質・栄養価を向上 させる。[生殖生長の促進] また草丈はこれ以上伸びすぎない。 ※なるべく肥沃な土作りと、このカルシウム追肥を推奨。	
開花期の 調節(適宜)	出芽10日後:着蕾始め その10日後:開花始め その半月後:開花最盛期	葉面 散布 調節	生長が弱い・遅い、茎が細い、シオレに <ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素液500倍を葉面散布で調節 ●蕾・花が少ない、短柱花と長柱花が偏る場合 ●花咲くCa液500倍を葉面散布で調節
		追肥 調節	葉色が薄すぎる場合(葉中チッソ3.0%以下) <ul style="list-style-type: none"> ●硫安10~20kgを追肥で調節 葉色が濃い場合(葉中チッソ濃度4.0%以上) <ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 10kg ※土壤pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。
開花盛期以降	開花最盛期以後半月以内 で開花終期、以後、結実期	開花最盛期以降、収穫までは肥料的には何もしない事。	

必須事項

適宜選択・状態により調節